

ドイツでは、小学校低学年の授業の大半を国語の授業に当てていますが、日本ではあまり国語教育に重点を置きません。

しかし、小学校の教員が国語力の重要性を認識して、算数の時間も理科や社会科の時間も、みんな国語の時間だと思って国語教育に力を入れる必要があります。

算数で「三角」という言葉が出てきます。小学校では、この三角という言葉で「さんかく」とかなで教えています。

どうして「三角」という漢字を使わないのでしょうか。角という字を使えば、「角が三つあるから三角だな」と言葉の意味がすぐ理解できますのです。

黒板に三角形の図を書いて、これが「さんかくけい」だと教えても子どもには呑み込みにくいのです。「三角形」なら一目瞭然です。

「宇宙」もそうです。以前は小学校で習う漢字の中に入れていませんでしたから、小学校六年生になっても「うちゅう」とひらがなで習っていました。でも、「うちゅう」という言葉を使うときは「宇宙」に決まっていますから、最初から漢字で教えたほうがいいのです。

漢字で学習すれば、算数や理科でもよくわかるのです。算数嫌い、

理科嫌いができるのも、国語力不足が原因です。計算問題はよくできても、文章題が苦手という子どもの場合、問題の意味がわからないというケースが大半です。こういう意味だと説明してやれば簡単に解けるのです。どんな学問でも、言葉を疎かにしたら理解することはできません。

言葉をしっかりと理解するためには、どうしても漢字というものをしっかりとやらなくてははいけないのです。